

小さなかいじゅうとようせい

千葉県 暁星国際流山小学校 二年

庭野 心暖

ぼくは、小さなかいじゅうです。学校からかえってくるとランドセルをほうりなげて、ようふくもほったらかしです。それをかたづけしてくれるのはママようせいです。ようせいは小さなかいじゅうに「ランドセルをかたづけなさい。」「くつ下をせんたくきにいれなさい。」と言いますが、小さなかいじゅうはかたづけません。小さなかいじゅうは、ソファアでねっころがってテレビを見てしまいます。そうしてそれを見ておこったようせいは大きなかいじゅうにしんかします。そして家には、おそろしい大きないぬがいますが、おちます。小さなかいじゅうも、大きなドラゴンにへんかします。そしてたたかいはじまります。たたかいで、大きなかいじゅうがかったので、大きなドラゴンはたいかし

て、あきらめてベンキようをはじめます。小さなかいじゅうは、ドリルのこたえをこつそり見ます。そして、おわらせたよつて、うそをついてまたあそびはじめます。でも、見たことがなぜかばれたとき、大きなかいじゅうのひっさつワザダブルクロスチョップでドリルが、二つにきれました。つぎに、おもちゃをぜんぶすてられました。小さなかいじゅうは、大きなこえで「ごめんなさい。」とあやまりました。ママは言いました。「ベんきようをさぼることより、おわつたとうそをついてあそぶことがだめだよ。」ぼくは、うそはついちゃいけないと思いました。

つぎの日、朝見たらおもちゃがもどっていました。

ごめんねママ。うそついてごめんなさい。もううそはつきません。

小さなかいじゅうより。いつもありがとう。